

横浜市立美しが丘小学校 令和2年 1月 31日

元気いっぱい 友だちいっぱい  
すずかで学ぼう 夢いっぱい



# 美小通信 10

横浜市情報教育ネットワーク(YY ネット)上に本校のホームページがあります。

URL : <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/utsukushiigaoka/>

学校長 松瀬 歩

青葉区美しが丘2丁目29

電話(901)3408

## この時季に思うこと

校長 松瀬 歩

ここ数日の春めいたあたたかさで正門近くの紅梅白梅の開花が一気に進んだようです。先週末は、雪かき用のスコップや融雪剤などを用意し積雪に備えていましたが、雨に変わり大人の世界では大きな混乱はなく、ほっとした方も多いのではないのでしょうか。

その朝、校門で子どもたちを迎えていると、子どもたちからは

「雪が積もらなくて、残念。」

という声がたくさん聞かれました。大人にとって雪は交通機関の運行の乱れや雪かき、雪による転倒などあまりありがたいものではないと感じられている方が多いと思います。一方、子どもにとっては雪合戦や雪だるまづくりなど減多にできない遊びができるうれしいものです。そして、我々教員も、子どもたちが非日常のわくわく体験をすることのできる絶好のチャンスととらえています。雪ひとつとってみてもそれぞれの立場によってかくも考え方が違ってくるのかと、この時期になるといつも考えてしまいます。また、首都圏の混乱ぶりを雪国の人たちはどのように見ているのかも想像してしまいます。

そんな私もかつては雪を楽しみにしている子どもの一人でした。雪が降ると自分と同じ大きさの雪だるまをつくらったり、できもしないかまくらづくりに挑戦したりして夢中になって遊びました。そのあと、教室の石油ストーブを囲っている柵にかけられたたくさんの靴下から湯気が立ち上っている光景や、友達と「おててがちんちんする。」と言い合っていたのを覚えています。

そして、時代は少しかだけ流れ、暖房器具は石油ストーブから、ファンヒーター、エアコンへと変わり、濡れた靴下や手袋を乾かす風景は見られなくなり少し寂しい感じもしますが、今でも子どもたちの雪に対する思いは変わっていないような気がします。

暖冬の今シーズン、雪遊びできるほどの積雪はあるのでしょうか。もし降った時には、子どもたちが思いっきり遊んだ後、困らないように、替えの靴下をもたせてください。

※「おててがちんちんする。」・・・新見南吉作「手袋を買いに」の場面で子ぎつねが母ぎつねに冷たくなった手を差し出して言った言葉。当時、国語の教科書に教材として載っていた。

## 美小自然ウォッチング



スダジイ・・・どんぐりをつける椎の木の仲間で、美小にはプールの裏に一本だけあります。最も身近なマテバシイのどんぐりより小ぶりですが、アクが少ないのでマテバシイのどんぐりより食べやすいと言われています。美小にはマテバシイ、スダジイ、コナラ、クヌギなどたくさんの種類のどんぐりを拾うことができます。